



仕事はおもしろい？

今晚、皆既月食が観測できるそうです。

空模様が気になりますが、皆既月食と天王星食の同時観測は 4,000 年以上ないと聞くと、何とか見られないだろうかと空に祈りたくなります。

天王星をこれまで一度も観測したこともないのに、実にわがままなものです。

夕方以降、雨は降らないようなので、期待したいと思います。

さて、昨日お伝えした教職員支援機構：荒瀬理事長の言葉について、もう少し紹介。

子どもの満足は教師の満足なしには生まれない。

もとよりこれは自己満足ということではない。

たとえば、探究心のない先生に出会うことで、子どもの興味・関心が引き出されるだろうか。

教育という仕事をおもしろいと思わない先生と一緒にいて、子どもは幸せだろうか。

よい仕事とは何か。子どもに問いかけられて答えられるか。そこが原点だ。

教育という仕事のおもしろさはどこにあるか。

私は保健体育の教員なので、生徒の「できた」という満足感あふれる笑顔を見たとき、仕事の楽しさとか喜びを感じていたように思う。

「バック転ができた」「走り幅跳びで〇m跳べた」「サッカーでゴールを決めた」

「1500m 走やシャトルランで自己記録を更新できた」 等々

「できない」が「できた」に変わった時に見せる笑顔、それを見たときに楽しいと感じてきた。

部活動も自分の人生の一部だったから、目標を達成できたときに共に喜んだ瞬間が楽しかった。

教育という仕事のおもしろさの一つは、生徒の「わかった」「できた」という成功体験を共に味わうことではないかと思う。

昨日の富山新聞に、Jリーグで優勝した横浜マリノスのケヴィン・マスカット監督が紹介されていた。

毎朝「何のために、今日目覚めたのか」と自問する

サポーターが喜ぶサッカーを進化させ、選手の長所を伸ばす

そのために生きる と自分自身に言い聞かせ、J1の頂点に立った。

「何のために、今日目覚めたのか」そんなことを自問したことはありませんでしたが、勤務日であれば、よい仕事をするためでしょうか。

探究心をもって、仕事のおもしろさを感じ、生徒の長所をさらに伸ばそうと支援する。

そういう仕事を行うことが、子どもの幸せや満足につながるのではないかと思います。

とりあえず今日は、探究心を高め 4,000 年以上ないと天体ショーを眺めてみませんか。